

広報うらやす

主な内容

児童週間	2
平成18年度市の財政状況	3
消費者月間	4
もったいないプロジェクト	5
浦安市市民会議中間報告会ほか	6
情報通信	7～11
保健ガイド	12

市の人口と世帯 人口＝157,896人（＋789）男＝79,570人（＋357）女＝78,326人（＋432）世帯数＝68,959世帯（＋769）平成19年3月末現在（ ）は前月比



春の

全国交通安全運動

油断せず いつも心に
初心者マーク

5月11日（金）～20日（日）は春の全国交通安全運動期間です。期間中は、市内各地で交通安全意識向上キャンペーンなどを行います。みんなで、交通ルールを守りましょう。

東小学校の新入学児童も、黄色いワッペンを帽子に付けて元気に登校しています

交通安全運動の重点目標

- 子どもと高齢者の交通事故防止
- 飲酒運転の根絶
- 自転車の安全利用の推進
- 後部座席を含むシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

交通安全出動式とキャンペーン

1日警察署長が交通安全キャンペーンを行います。
時 5月11日（金）午後4時～
所 新浦安駅前広場 ※雨天の場合は市民プラザ

交通安全高齢者の集い

高齢者を対象に、交通安全に関する講話、寸劇とビデオ上映を行います。
時 5月15日（火）午前10時30分～
所 老人福祉センター

新1年生へ

黄色いワッペンの贈呈式

4月5日、市役所第2庁舎で黄色いワッペン贈呈式が行われました。

黄色いワッペンは、小学校の新1年生の交通安全を願って、昭和40年から毎年贈呈されているものです。今年も、(株)みずほフィナンシャルグループ、(株)損害保険ジャパン、明治安田生命保険相互会社、第一生命保険相互会社から全国の新1年生に贈られました。



市では、新1年生を代表して、國吉克海くん（舞浜小学校）、星野朱音さん（東小学校）が贈呈式に出席し、ワッペンを付けてもらいました。

贈呈されたワッペンは、市内17の小学校に入学した約2000人の児童に配付され、新1年生はランドセルや帽子に付けて登下校しています。

自転車に乗るときのマナーは6ページへ

Key Word 長崎市長を悼む

4月17日の夜、公務を終えて自宅に戻ったところ、NHKのテレビが、通常の番組を変更して長崎市からの中継で、長崎市の伊藤一長市長がピストルで撃たれ、救急車で搬送されている緊迫した画面が映し出されていました。
着替えるのも忘れ、しばしテレビにくぎづけになりました。
ほんの一週間前、伊藤市長から市長室に電話があり、近々ゆつくり語り合いますよ、うと話したばかりでしたので、画面の現実を見ながらも「まさか」という思いと、あののなら最悪の状況乗り越えられるだろうと、少しでも樂觀的に考えたいと希望的な観測を持ちながら、妻と祈るような思いで「危機を脱出」の一報を待ち望んでいました。
しかし、祈りもむなしく日付が変わっても「心肺停止」の非情なテロップが繰り返しの流れなか、鬱々とした思いのまま床につきました。
残念なことには朝一番のテレビは、志半ばで亡くなった伊藤市長の非業の死を伝えていました。
浦安市と長崎市との関わりは、5年前の平成14年から、悲惨な原爆の実態を被爆体験者から、これからの時代を担う浦安市の子どもたちに、直接、語ってもらおうと、「被爆体験講話」を始めたのがきっかけです。
高齢化が進むなかで、今を逃したら被爆者の生の体験は聞けなくなるとの思いから、長崎市と（財）長崎平和推進協会のご理解とご協力によって、

毎年「原爆の語り部」の方々に浦安市に来ていただいています。
また、市内の公立中学校の生徒を「平和使節団」として、毎年、長崎に送り「ピース・フォーラム」に参加して、それぞれの中学校で原爆の悲惨さと、平和の尊さを再認識する教育の場とさせていただいています。
このような縁から、伊藤市長とは、2年前の上京の折には、食事を共にして懇親を深めるなどしておりました。
平成14年の夏に、長崎市から送られた「平和の楠」が北部小学校の校庭ですくすくと育っています。この楠は、爆心地から約800メートルにある山王神社の被爆した楠の種から大事に育てられたものです。
被爆地長崎の平和にかける思いと、「浦、安かれ」と平和の祈りが込められた浦安の思いは同じと、二人で大いに盛り上がったことを思い出します。
帰らぬ人となってしまった伊藤一長市長のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

松崎 泰樹

こんにちは市長室です